

参加申込みについて

申込方法

参加申込みについては教育研究所Webサイトで受け付けています。
(※全体講演・研究発表1・研究発表2のみの参加も可能です。)

申込締切: 2019年5月28日(火)

奈良県立教育研究所 <http://www.e-net.nara.jp/kenkyo/>

申込みQRコード



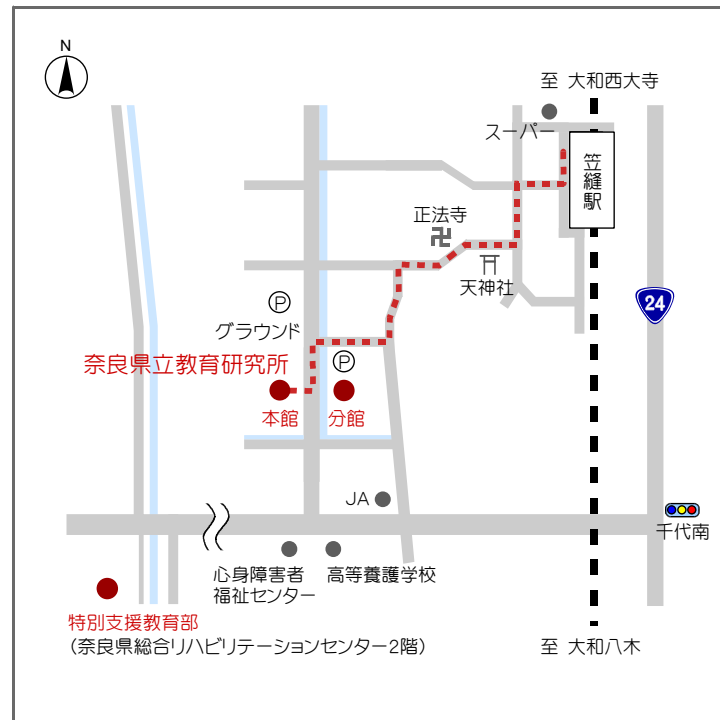
FAXや郵送での申込みを御希望の場合は、以下までお問い合わせください。

問合せ先

奈良県立教育研究所 教科・情報研究部 教科教育係
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1
TEL: 0744-33-8903

会場への案内

近鉄橿原線 笠縫駅から南西へ約0.6km
なるべく公共交通機関を御利用ください。



- ・近鉄大和西大寺駅から笠縫駅まで約25分
- ・近鉄大和八木駅から笠縫駅まで約5分
- ＊笠縫駅に急行は停車しません。



奈良県立教育研究所

教育セミナー2019

～次世代の教育を考える～

日時

2019年6月7日(金)

13:00～16:45(受付12:30～)

場所

奈良県立教育研究所

対象

教育関係者及び教育に関心のある方



- ◆日程、内容等に変更があった場合は、奈良県立教育研究所のWebサイトにてお知らせします。
- ◆当日の午前11時現在、県内いずれかの地域で気象警報が発令されている場合は、中止とする場合がありますので、参加の前に奈良県立教育研究所Webサイトを御確認ください。

奈良県立教育研究所 <http://www.e-net.nara.jp/kenkyo/>

タイムスケジュール

12:30
受付

13:00～14:30
開会式・全体講演

館内見学

15:00～15:45
研究発表1

移動
休憩

16:00～16:45
研究発表2

12:30～17:00 パネル等の展示(研究成果及び各種紹介パネル)

教育セミナー2019 ～次世代の教育を考える～

● 開会式・全体講演

13:00～14:30
(受付 12:30～)

1

全体講演

21世紀型授業

～子どもたちのプレゼンテーションがなぜ重要か～

京都外国語大学教授
ガー・レイノルズ
Garr Reynolds氏

● 館内見学

14:30～15:00

ロビーにてパネルの展示、教材体験等を開催しています。御自由に御覧ください。



● 研究発表 I

15:00～15:45

- ② プロジェクト研究 I 幼小接続(第1部)
- ③ プロジェクト研究 II 言語活動の充実【小学校外国語活動】
- ⑤ プロジェクト研究 III ICT活用教育【小学校】
- ※ ⑦ プロジェクト研究 IV 特別支援教育 前半
- ⑧ 個人研究 教科教育【小学校体育】
- ⑩ 大学院研修研究報告 生徒指導
- ⑫ 大学院研修研究報告 特別支援教育【小学校低学年】
- ⑭ 大学院研修研究報告 特別支援教育【中学校数学】
- ⑯ 大学院研修研究報告 生徒理解

● 研究発表 2

16:00～16:45

- ② プロジェクト研究 I 幼小接続(第2部) これからの幼小接続を考える
- ④ プロジェクト研究 II 理数教育【中学校数学】
- ⑥ プロジェクト研究 III ICT活用教育【高等学校】
- ※ ⑦ プロジェクト研究 IV 特別支援教育 後半
- ⑨ 個人研究 教科教育【小学校社会】
- ⑪ 大学院研修研究報告 教科指導
- ⑬ 大学院研修研究報告 特別支援教育【小学校高学年】
- ⑮ 大学院研修研究報告 学級経営
- ⑰ 実践報告 奈良県小・中学校図画工作・美術教育研究会

申込方法

参加申込みの際には、①～⑰のうち、希望される番号を入力してください。
※の発表は研究発表1・2を通して参加をお願いします。

全体講演 講師紹介

京都外国語大学教授
ガー・レイノルズ

Garr Reynolds氏



プレゼンテーションの世界的な第一人者。1989年に初来日して以来、20年以上日本に在住し、その文化や哲学を研究し続ける。住友電気工業や米アップル社の勤務を経て独立。スティーブ・ジョブズ流のプレゼンテーションに日本文化「禅」を融合させた手法は、シンプルかつ記憶に残るメソッドとして名高い。企業向けの研修やコンサルティングのほか、世界中の企業や大学に招かれて、セミナーを行う。著書「プレゼンテーションZen」は世界20か国で発売され、35万部以上の大ベストセラーに。米オレゴン州出身。

パネル等の展示

奈良県立教育研究所のプロジェクト研究・個人研究の報告や各部・係の取組、奈良県教育委員会各課・室等の取組をまとめたパネル等を展示しています。

パネル展示予定

- 奈良県立教育研究所
 - ・教育経営部-教育企画係、研修企画係、学校教育支援係
 - ・教科・情報研究部-教科教育係、ICT教育係
 - ・特別支援教育部-特別支援教育係



■奈良県教育委員会各課・室

- ・教育政策推進課
- ・教職員課
- ・学校教育課
- ・生徒指導支援室

■奈良県立施設

- ・うだ・アニマルパーク
- ・野外活動センター

教材体験

新しい教材やICT・デジタル教材など、実際に実物に触れながら体験できます。



② プロジェクト研究 I 幼小接続

遊びから主体的な学びへつなぐ幼小接続の在り方

幼児期に遊びの中で主体性を培い、小学校生活で力を発揮するために、子どもを中心に据え、子どもに付けたい資質・能力を考えます。第2部は幼小の教職員が互いの教育を交流し合い、これからの幼小接続について考えます。第2部からの参加も可能です。

③ プロジェクト研究 II 言語活動の充実【小学校外国語活動】

深い学びを実現する評価の工夫

小学校外国語活動において、言語活動への積極性を高める学習シートの活用について研究を行いました。児童の実態に沿った学習シートの工夫と活用、その成果について報告し、効果的な言語活動の取組について考えます。

④ プロジェクト研究 II 理数教育【中学校数学】

深い学びを実現する評価の工夫

中学校の数学科において、評価を指導の改善に生かす取組を積み重ねること、数学に対する意識の向上や生徒のもつ課題の解決に効果があることについて研究を行いました。研究の成果を実践事例とともに報告し、評価と指導の工夫について考えます。

⑤ プロジェクト研究 III ICT活用教育【小学校】

教員の資質向上

2020年度より小学校において必修化されるプログラミング教育を見据え、児童の情報活用能力の向上のために、プログラミング的思考を意識した問題解決学習の研究に取り組みました。その成果について報告し、情報活用能力とは何かを考えます。

⑥ プロジェクト研究 III ICT活用教育【高等学校】

教員の資質向上

生徒の情報活用能力の育成を図るために、教科等横断的な視点から考えるカリキュラム・マネジメントの在り方の検討や授業実践研究を行いました。その成果について報告し、情報活用能力とは何かを考えます。

⑦ プロジェクト研究 IV 特別支援教育

多様な生徒の自立と社会参加に向けた高等学校における特別支援教育～生徒の主体的な取組を促す支援体制づくり～

高等学校における通級による指導の制度化と運用に向け、研究校において通級による指導を試行しました。自立と社会参加を見据えた通級による指導の実践について報告するとともに、学校全体で取り組む支援体制づくりや特別支援教育の充実のための工夫について考えます。

⑧ 個人研究 教科教育【小学校体育】

教科の見方・考え方を働かせる授業の工夫～跳び箱運動の授業づくり～

小学校第3学年の跳び箱運動の授業において、児童が「体育の見方・考え方」を働かせながら、資質・能力の三つの柱を確実に身に付ける学習指導過程を提案し、その効果を検証しました。新学習指導要領の全面实施に向けて、「できる」「わかる」「関わり合う」体育の授業づくりについて考えます。

⑨ 個人研究 教科教育【小学校社会】

教科の見方・考え方を働かせる授業の工夫～地域教材の活用等を通して～

新学習指導要領の考え方を基に、児童が「社会的な見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現するため「地域教材『松永久秀』を活用した授業づくり」「児童相互に事実を依拠した話し合いを行う『ねりあい』」「児童の振り返りの共有」といった指導法について考えます。

⑩ 大学院研修研究報告 生徒指導

生徒の自己肯定感を高める教師としての関わり方について

様々な機関から青少年の自己肯定感の低下が報告されています。自らも今までの取組を通して生徒が自己完結してしまう課題に直面してきました。自らのこれまでの取組を振り返り、それを題材として先輩、同僚教員、生徒との意見交換を通して考えた「生徒の自己肯定感を高める教師としての関わり方」について報告します。

⑪ 大学院研修研究報告 教科指導

高等学校国語科における言語感覚を磨く授業の実践研究～語彙を拡充することと書くことの関わりに着目して～

国語科の授業でどのようにして「よき言葉の使い手」を育てるかという課題意識の下、「語彙の拡充」と「書くこと」の関連に着目し、言語感覚を磨く授業の実践について検討しました。言葉集めとエッセイ執筆の授業を通して生徒たちがどのように学び、どのような力を付けていったのかを報告します。

⑫ 大学院研修研究報告 特別支援教育【小学校低学年】

早期の算数のつまづきに対応するために～数概念とワーキングメモリに着目して～

早期の算数のつまづきに関わりが大きいと思われる数概念やワーキングメモリに着目し、小学校第1学年算数科におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを行いました。つまづきに対応するために継続的にアセスメントや授業の中で行った数概念を育てる取組について報告します。

⑬ 大学院研修研究報告 特別支援教育【小学校高学年】

PASS理論を活かした児童理解と授業づくりについて～小学校高学年算数科の実践を通して～

通常学級での個別対応のニーズが高まる一方、集団指導の中での支援の難しさが指摘されています。本研究では、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童の「困り感の背景」に着目して、認知科学に基づくPASS理論を活かした児童の実態把握と授業づくりの実践結果について報告します。

⑭ 大学院研修研究報告 特別支援教育【中学校数学】

中学校数学科「数と式」領域における支援～「視空間認知」の視点から～

通常学級には20%程度、「視空間認知」に課題のある生徒が在籍し、中にはそれに起因する学習面でのつまづきを抱えている生徒もいます。本研究では、数学科「数と式」領域の学習において、「視空間認知」の視点から、効果的な教材や授業方法、学習支援の在り方について検討した結果を報告します。

⑮ 大学院研修研究報告 学級経営

小学校における学級づくりの一考察～優れた教員の指導方法から学級経営の体系化を試みる～

優れた教員の教科指導以外の集団育成に関わる指導行動に共通項があるのかを調査し、指導行動の抽出と分類を行いました。さらに、得られた結果から教科指導以外の集団育成に関わる指導行動モデルの開発を試み、学級経営改善に結び付くかの臨床的な妥当性について検討した結果を報告します。

⑯ 大学院研修研究報告 生徒理解

「自己確証」を通じた中学生の自己形成についての検討

青年期は他者との相互関係の中で自己認識や自己形成が行われている時期だと考えられます。自己動機の一つ、既にもっている自己概念を安定的に維持しようとする「自己確証」に着目し、中学生の「自己確証」のプロセスと心理的適応・学校適応への影響について検討した結果を報告します。

⑰ 実践報告 奈良県小・中学校図画工作・美術教育研究会

子どもが輝く図画工作の時間

造形活動を通して、子どもたちが自分の思いなどを工夫して表現し、つくりだす喜びを味わい、一人一人が輝ける図画工作の時間を目標しました。目標を達成させるための具体的な手立てとともに、子どもの思考の様子や変容を報告します。

アンケートのお願い

当日配布するアンケートの御協力をお願いします。

(アンケート用紙は各会場にて回収します。)

